



学校だより

4月号

横浜市立大道小学校
令和3年4月7日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「愛」

先月下旬から、季節を追い越したような暖かい日が続いたためか、校庭の桜が散るのも早かったように感じます。明るい陽ざしの中、令和3年度を迎えることができました。ぴかぴかの新1年生59名を迎え、合計352名での嬉しいスタートです。今年度も、保護者・地域の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、よりよい大道小を目指して学校づくりを進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

4月は、出会いの季節です。今年度着任した職員が加わったことで、新しい風が吹き込み、新鮮な気持ちになります。「今年も頑張ろう!」と思うと同時に、身の引き締まる思いがします。私は、1日に「今年度、こんな学校にしていきたい。」と、職員に自分の考えを話すのですが、そこで、最初に話したことを紹介させていただきます。

「鍵」になるのは、私たちの「ハート」です。愛があふれる大道小にしましょう。

私は、どの子にとっても安心できる学校にしたいと考えています。自分らしく、のびのびと様々なことにチャレンジすることも、友達と交流しながら学ぶことも、基盤となるのは、子どもが「安心して生活できる。」ということです。私たちは、常に「子どもたちが、安心して生活できているか。」ということに注意深く見ていかななくてはなりません。

子どもが、「〇〇を頑張りたい!」と意欲をもった時や、苦手なことにチャレンジしている時、それができるよう支援したり、勇気付けたりしたいと思います。そして、子どもが「先生、出来たよ!」と嬉しそうな表情を見せた時、一緒に喜びたいと思います。

子どもが、嫌な思いをしたり、悲しい気持ちになったりした時、話を丁寧に聴き、子どもと気持ちを共有したいと思います。親身になって、解決方法を一緒に考えたいと思います。

子どもが良くない言動で、迷惑をかけたり、人を傷付けたりした時、心で涙を流しながら、本気で叱りたいと思います。過ちに気づき、反省をすることが、その子のより良い将来へとつながっていくからです。

指導をする際、私たちは経験などをもとにしながら、「まずは～～しよう。」その後に「～～しよう。」というように考えます。こういった「指導技術」を磨くよう、私たちは日々努力しなくてはなりません。しかし、時にそれを超えていくのが「ハート」です。先生の「〇〇さんをこうしてあげたい。」という熱い思いや、子どもを信じる気持ちが、すべての指導を支える基盤となります。そうです、「愛」がなくては、子どもが安心できる学校づくりは実現しません。「愛」をもって子どもたちを支える大道小でありたいと、「当たり前」だけれど、「とても大切なこと」を改めて考え直した、令和3年度のスタートでした。

(2番目に話したことを来月号で書かせていただきます。)